

「小平市農のあるまちづくり推進会議」からの提案

農業公園づくりに向けて



平成27年6月

小平市農のあるまちづくり推進会議

目次

	頁
はじめに.....	1
1 農業公園の目的.....	
農業公園の目的.....	2
農業と市民の暮らし.....	2
2 提案の内容	
農業公園の基本的な考え方.....	3
農業公園に求められる機能.....	3
小平市農業公園の提案.....	4
農業公園ネットワーク～農のあるまち小平.....	5
3 今後の課題	
用地取得.....	7
機能分担、ネットワーク.....	7
管理運営する団体の組織化.....	7
4 委員名簿	
推進会議委員名簿（平成25～26年度）.....	8

はじめに

都市の中に農業、農地を位置づけていくためには、農業者だけではなく、農業者、消費者等が役割分担をしつつ、一体となって農のあるまちづくりを推進していくことが求められています。

そこで小平市では、農業者、農業関係機関、消費者団体、行政等からなる「小平市農のあるまちづくり推進会議」を平成17年度より設置し、様々な立場から農のあるまちについて意見交換を行ってきました。

第5期（平成25年～）では、小平市第二次都市農業基本構想（平成19年3月策定）の中で検討が位置づけられている「農業公園」に的を絞って、議論を進めてきました。

推進会議では、「農業を身近に感じてもらう公園とは」、「農業公園に必要な施設とは」、「小平市らしい農業公園とは」などについて、約2年をかけて主体的に議論、他市事例研究を重ね、委員全体で課題発見や提案づくりを行ってきました。

本提案は、多くの市民が「農」に関して共有できる農業公園を具体的プランとしてまとめ、提案するものです。

この提案の内容が、実現することを委員一同願っています。

平成27年6月

小平市農のあるまちづくり推進会議

1 農業公園の目的

1 農業公園の目的

農業公園は、「農業振興を図る交流拠点として、生産・普及・展示機能、農業体験機能、レジャー・レクリエーション機能等を有し、農業への理解の増進や人材の確保育成を図るための公園」とされています。

小平市では、市の面積の約1割（約200ヘクタール）の農地が、市民の日常生活の中に溶け込み、農業・農地との接点も多く、小平に居を構えることの喜びの一つとなっています。

農地は、農作物の生産の場としての機能だけではなく、環境、防災、教育、など多面的機能により、都市の中での価値がますます上がってきています。しかし、都市化により年々農地は減少しており、また、住宅地の中に農地が点在し、農業経営が難しくなる場面も起きている。住民の理解なくして、農業・農地の存続はできない状況です。

農業公園では、農業者からの情報の発信の場、農産物の購入、収穫体験、農作業体験、食との触れ合いなど多種多様な農業の持つ役割を学び、感じることができます。農との接点をつくり、農のある生活を日常化することで、農業を身近に感じ、小平市の地域資源である「農地」の重要性を再認識し、農業への理解が深まり、緑多い、小平市観光まちづくり推進プランに掲げる「都会から一番近いプチ田舎」の良さを再認識できるのです。

「人」と「人」をつなぐ場、「昔」と「未来」をつなぐ場としての農業公園の重要性や期待は、今後ますます高まってくるといえるでしょう。

2 農業と市民の暮らし

小平市では、市民の普段の生活に農業が深く溶け込んでいます。

農業の機能と日常生活	市民が望むこと	実践されていること
農業生産	農作業体験	援農ボランティア 体験農園、市民菜園
	農業を学びたい	体験農園、学童農園
農産物販売	農産物を買いたい	個人直売所、JA直売所、直売所マップの作成
	農産物を食べたい	飲食店等での利用 エダマメウィーク
農風景に癒される	借景、散策	緑の基本計画による保全
広い空間	災害時に逃げ込みたい	災害協力農地協定

2 提案の内容

1 農業公園の基本的な考え方

小平市の農業公園の基本的な考え方を次のようにまとめました。

- ◆農の情報の発信基地
(農情報入手できる：市民、農業者)
- ◆気軽に参加・交流できる場
(農業者⇄市民、市民⇄市民、世代間)
- ◆小平らしい農業施設
(歴史、文化、自然)
- ◆既存の農業関連施設との共存
(既存施設との役割分担)
- ◆費用対効果を意識
(過大な費用を投下しない)

小平市内には「小平ふるさと村」「農業体験農園」「市民菜園」「観光農園」など特色ある農園、施設が存在しており、これらの施設等が他市の農業公園の機能を既に持っています。

小平市において、新たに農業公園の設置を行う場合、これらの施設と競合せず、役割分担を行い、関連性を持つことで、それぞれの施設の機能をさらに向上させるような相乗効果を生むことが期待できます。

2 農業公園に求められる機能

小平市の貴重な資源である農地への理解を深め、農業者、市民、行政等が一体となって都市農業の推進を図るための拠点として、農業公園は次の視点を掲げます。

小平市の農業公園の視点

- ◆都市農業拠点
都市農業を身近に感じ、理解を深める
- ◆地産地消拠点
市内農産物、特産品を気軽に購入できる機会の創出
- ◆交流拠点
人と人の交流、歴史・文化との接点
- ◆情報発信拠点
市内情報の発信による、地域の活性化

上記の視点を踏まえ、具体的に次の機能を有する施設を想定します。

- (1) 体験・学び
 - ①農作業を体験する場（種まき、除草、収穫）
 - ②作物を調理、加工する場
 - ③各種セミナー
- (2) 情報発信
 - ①農業、農家情報の発信
 - ②農関連施設情報の発信
 - ③栽培方法等知識の向上のための発信
- (3) 販売
 - ①農産物直売所
 - ②加工品販売
- (4) 集い
 - ①遊び場、たき火（多目的広場）
 - ②交流の場
 - ③災害時の避難場所
- (5) 歴史・景観・文化
 - ①新田開発の歴史を伝える
 - ②農景観の保持（茶垣、用水）
 - ③歳時記と食べ物、生活

3 小平市農業公園の提案

小平市の農業公園について、他市の事例等を参考に、求められる機能を実現するために想定される施設の規模、内容等について、次のとおり提案します。

(1) 農業公園の規模

小平市の生産緑地の買い取り申し出等の状況から、入手可能な面積として3,000㎡を想定して、全体の構成を考えてみます。

①体験農園：	600㎡
②作物見本園：	100㎡
③多目的広場：	1,000㎡
④多目的施設：	1,000㎡
⑤駐輪・駐車場：	300㎡

- ①体験できる農園
市民が農作業（種まき、除草、収穫等）を体験できる畑
- ②作物見本園
市内で育てられている野菜、果樹、花卉、植木等が見られる園地
- ③多目的広場
土・草地の広場、緑陰空間などで、たき火などでもできる場所
災害時には、一時避難場所としての機能も有する
- ④多目的施設
調理室、セミナー室、展示室、直売所などの機能を有する建物敷地
休憩、交流、学ぶ場として様々な用途で使用する建物
- ⑤駐輪・駐車場
自動車駐車場10台、自転車駐輪場90台分のスペース

(2) 管理運営

公設民営方式として、農家、市民、JAが関わる団体等が、指定管理者として全体を統括、維持管理を行うものとします。

- ①畑の管理
体験農園OBや援農ボランティアなどが日常の畑の管理を行う
- ②技術指導
生産団体、農業経営者クラブなど生産者団体が指導を行う
- ③直売所運営
ノウハウを持つJAが行う
- ④加工技術指導
農業女性団体などが指導を行う

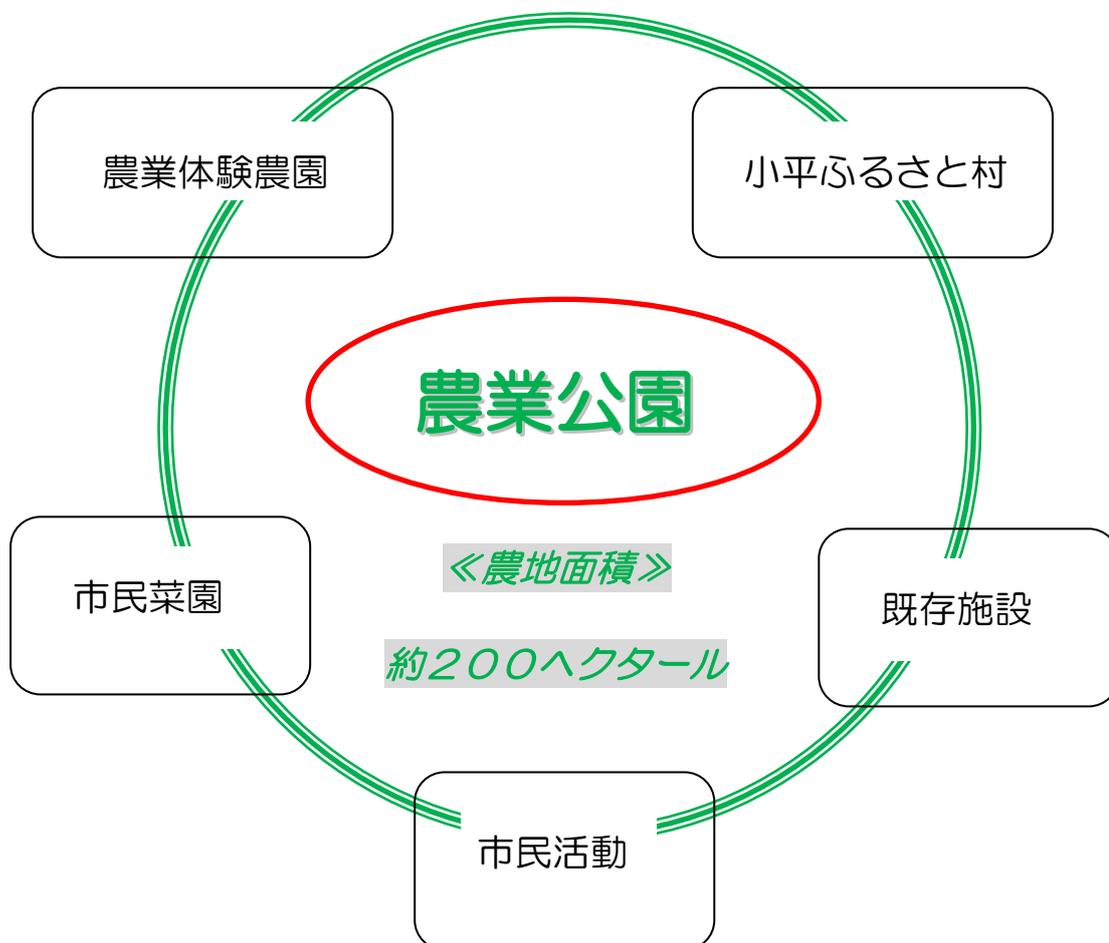
4 農業公園ネットワーク ～ 農のあるまち小平

小平市内には、「小平ふるさと村」「農業体験農園」など、既に農業公園の一部機能を有する施設が開設されています。また、地場産農作物の料理教室などが、公民館等で実施されています。

このため、全ての機能を農業公園に集約するのではなく、既存の施設の機能や、市民活動等をネットワーク化することが求められます。それぞれの施設の機能を生かし、役割分担することで、農の接点を増やし、相乗効果をあげていき、小平市全体を「まるごと農業公園」として機能させるのです。まさに、「農のあるまち小平」の実現となります。

全市的な取組として、活動が面的にも広がり、PR効果もさらに増していくものと考えます。

小平市まるごと農業公園のイメージ



3 今後の課題

農業公園の整備について、現在考える課題について整理します。

1 用地取得

農業公園を整備するための用地を取得します。

可能であれば、公園や公民館、地域センターに隣接し、前述の機能目的で使用できる土地であれば、より望ましいと考えます。

本提案書では、3,000㎡を基本に考えましたが、より広い面積が入手できれば、より充実した施設、内容の公園となります。

2 機能分担、ネットワーク

取得用地面積等により、整備できる内容が変わってきますが、小平ふるさと村や体験農園等で実施している事業内容と競合することなく、機能分担しながらネットワーク化を図っていきます。

3 管理運営する団体の組織化

市が直営するのではなく、公設民営化することで、市民の力を活用し、より効果が上がることが考えられます。

想定している援農ボランティア、体験農園OBなどの市民をどの様に組織化するか、また、JAなどとの様に連携させていくかについて、関係機関との十分な協議が必要となってきます。

4 委員名簿

小平市農のあるまちづくり推進会議委員名簿（平成25～26年度）

氏名	選出団体等	備考
肥沼 好一	J A東京むさし青壮年部	
岸野 喜久江	小平ピクルスの会	
古川 裕朗	小平商工会	
小日向 辰雄	小平商工会商業部会	
中野 とし子	小平商工会女性部	
田代 由紀子	公募	
庭野 勉	公募	
和田 淳	公募	
水口 和恵	公募（消費者団体）	
足達 千恵子	公募（消費者団体）	
窪田 文一	J A東京むさし	
粕谷 英雄	小平市農業委員会	
沼田 洋子	東京都中央農業改良普及センター	
北沢 俊春	東京都農業会議	座長

小平市農のあるまちづくり推進会議からの提案

農業公園づくりに向けて

平成27年6月
